

新宮山彦ぐるーぷ第2015回

南奥駆道(持経宿〜太古ノ辻〜前鬼)間の点検巡視と

平治宿の窓ガラス破損(消火器暴発)応急処置など

◇実施日：2019年04月20日(土)〜21(日)

◇参加者：巡視班：豊嶋 寛、児嶋道夫、梶野照雄、塩川真武、勝山滉紀。 5名。

平治宿班：川島 功。 1名。

車のサポート(池郷林道)：沖崎吉信。 総勢7名。

4月20日(土) 晴

午後1時ちようどに前鬼口到着。塩川車と豊嶋車、それと二輪車が一台停まっていた。二輪車は豊嶋さんのお孫さんだった。

4台で前鬼に向かう、約30分で小仲坊に着き、五鬼助さんに挨拶を済ませて塩川車に荷物を満載して4人で池原へ向かった。スポーツ公園の駐車場には、川島・沖崎車がスタンバイ。沖崎車に荷物を積みかえて持経宿に向かった。



前鬼口で合流



持経宿到着



ストーブの補修

沖崎車には、パンクに備えてスペアタイヤが一本余分に積んであり総勢7名が同乗のため、荷物を足元やシートに分散しておいたため身動きが取れない状態だ。

50分で持経宿に到着、休む間もなく掃除や水場点検と水汲み、千年檜を越えた地点に自生のシキビを採り、お堂(不動堂・千年檜祠)の生花替え等を行う。沖崎さんは30分程いて帰新、明日は釈迦ヶ岳なので連日の出勤となる。

午後4時過ぎに予約のあった「みちくさハイキングクラブ」の6名(永山和明、岩崎仁子、岩崎佳代、玉置治春、木村れい子、永山 岬)が到着。

各自持参の夕食、みちくさハイキングクラブはうどんスキ。茹でたスナック豌豆・鰯の丸干し(豊嶋)、玉葱と鯖缶サラダ・胡瓜Qちゃん(川島)、マグロせせり(当会)等の差入れで5時過ぎから夕食懇親会を開宴。



予約者到着



夕食懇親会



本日の宿泊者

冷えたビールで乾杯し、順番に自己紹介の最後に、みちくさハイキングクラブのリーダーから「平治宿の窓ガラスが割れていて、室内が真っ白になっていた」との情報がもたらされた。すでに午

後6時を過ぎていて外は暗くなり始めている。この時間から平治宿まで行くことは躊躇された。後日、といっても林道の工事通行止めや大型連休もあり、どうしたものかと考えながら夜を迎えた。午前0時頃に目が覚め、隣を見ると寝ていたはずの児嶋さんの姿がない。見回してみるとストーブ前の通路に寝床ごと移動していた。児嶋さんは朝まで2〜3時間おきにストーブに薪を補充してくださった。夕方から雲が出てきて、放射冷却の冷え込みは無かったが、室内は20℃を下回ることがなく、毛布一枚でも薄着で快適な状態が保たれた。

行動タイム

前鬼口13:00→13:32前鬼・小仲坊→14:15スポーツ公園駐車場
14:25→15:35持経宿。

4月21日(日)曇りのち晴れ

点検巡視班(持経宿→太古ノ辻→前鬼・小仲坊)

午前4時過ぎに目が覚めた。外はまだ真つ暗だが「みちくさハイキングクラブ」の6名は、起き出して朝食の準備を始めている。我々も起きて発電機を始動、照明を確保して各自朝食にする。

外は風が少し残っていて曇り、低層雲の中に入っているようだ。寒さを感じるほどの気温ではない。

朝、川島さんから提案があり「俺一人で平治宿まで行き窓枠を持って降りる。池原までは林道を歩いて下る、前鬼までは5人で行ってくれ。前鬼で待っている」という。連休でガラスを交換するのが難しくなるので、考えられる策としてはベストかと思いき座に同意した。

午前6時に出発、私以外の4名は身支度を整えて「まだかいな？」と急がせる。慌てるよりくたは無い。児嶋さんがヘルメットを忘れてきたことに気づいたのは一時間半後だった。



出発準備中



両手に花の川島さん



阿須迦利岳到着

毎度のことだが、朝一の阿須迦利岳までの急登はしんどい、30分ほどで阿須迦利岳に到着。休憩していると後発の「みちくさ」の6名が追いついてきた。阿須迦利岳から30分、葉の付いた枝が道を塞いでいた。直径10cmほどのケヤキで、先頭の児嶋さんが切除し残り4名が跡片付け。



倒木処理



証誠無漏岳を北へ下ると、直径20cmの斜木が道の上にあった。児嶋さんが切っているが、あと少しのところまで刃が挟まってしまった。チェーンソーが2台だとこんな時にも解決が早い。先端から順に切り落として刃の挟まりを解消。小切って路外に排除した。涅槃岳までにも一本を切除したが、複数人なので跡片付けが早く済んだ。児嶋さんは英語表記を追加した標識を山頂ごとに設置される。標識は8枚設置するとの事。



涅槃岳で

乾光門南(手前)の崩落箇所は以前とあまり変わっていないように見えた。崩落は少し止まっているようだ。乾光門から10分ほどで、細い木だが完全に道を塞いでいる。切除は児嶋さんにお任せする。



倒木切除が続く



乾光門手前の崩落箇所

倒木切除前

切除後

2台のチェーンソーで



トレイルランナーに出会う



滝川辻の南側でブナの倒木を切除、午前9時過ぎ滝川辻に着いた。ここまで上り下りの連続なので、だんだん歩くスピードが遅くなっている。

滝川辻から般若岳の間でも複数の倒木があり2台のチェーンソーが大活躍、私のチェーンソーの刃が挟まり児嶋さんに助けをただくシーンもあった。

般若岳の登りで、下ってくる人がいた。顔なじみのトレイルランナーで、今年も奥駈トレイルランに参加の予定だという。「行仙宿でコーラを用意してきますよ！」と言ってしまったので5月11〜12日は、行仙宿に行くことになってしまった。

地蔵岳の南側で踏み跡がはっきりした獣道に入り込んでしまい、途中で尾根に直登して奥駈道に復帰する。最後尾が私と塩川君だったが、先行した4人も同じことをしていた。逆峯では間違いようがないが、順峯で間違いやすい場所としておきたい。基本的に尾根通しなので、トラバースは長い距離は続かない。

塩川君は持参の枝打ち鎌で飛び出した枝や、道際の棘などを刈りながらの歩行だ。単純に歩くより、何かをしながらの方が気分的に楽な気がする。



鎌で棘・小枝刈り



地蔵岳に標識設置



嫁越峠の標識

10時40分、地蔵岳に到着。倒木処理や道間違えなどで一時間近く余分にかかってしまった。

11時過ぎに嫁越峠到着、石柱の手直しや標識設置作業後に昼食を摂る。約30分間ゆっくり休憩して北上を始める。

奥守岳を越して午後1時に天狗山着。ここで豊嶋さんとお孫さんが二輪車で高槻まで帰るため先行下山される。

天狗山で川島さんに電話、呼び出し音が聞こえて通話できた。

「もうすぐ池原に着く、平治宿の消火器が無くなっていて室内は消火剤で真っ白、割れた窓は東側、掃除に2時間掛かって何とか宿泊できるようになった」と聞かされた。おそらく消火器が何らかの原因で爆発、本体容器はガラス窓をつき割って東側斜面に飛んで行ったものと思われる。各小屋の消火器の点検が急務である。できれば飛んで行った消火器を回収して、状態を確認、原因の調査も行いたいものである。



天狗山で



大日岳と釈迦ヶ岳を見る



太古ノ辻着

般若岳を過ぎてからチェーンソーの出番は無く、天狗山からは歩くだけになった。午後2時過ぎに太古ノ辻着。午後3時ごろに前鬼到着予定だったが、一時間位遅くなってしまった。少し休憩

して前鬼を目指す。

二ツ岩の少し上で大きく崩落した箇所が2カ所、連続して現れた。上方の崩落部分は広範囲に土砂が滑り落ちて、下層の岩盤がむき出しになっている。滑り落ちた土砂は生えていた木々がそのままの状態でも20mほど下に見えている。登山道はこの滑り落ちた最上部を横切って下っていくため、少々危険が伴う。児嶋さんは、いつも背負子に付けているトラロープを外してここに張ると言うが長さが不足している。何かないかと見回してみると、以前から立ち木に束ねられていた緑色のロープが目に入った。長さも太さも十分なので、立ち木から外して、上部はブナの大木に、下部はクサリの支点にそれぞれ結び付けて補助ロープを架設した。



崩落個所に補助ロープ架設

下方の崩落箇所は比較的斜度もゆるく、岩がむき出しのため滑りにくい。ただ、倒れている木が少々邪魔をしている。20cm位の木なので切除はできるが、上にある根の部分が落ちてきそうなので、切らずそのままにした。



2カ所目の崩落現場



倒木が邪魔をする



前鬼・小仲坊に到着

午後4時過ぎに小仲坊着、川島さんの出迎えを受ける。五鬼助さんに崩落の状態を報告、五鬼助さんも複数の登山者から聞いておられたらしく「役場にお願ひしてみる」とおっしゃられた。

川島車に児嶋さん、豊嶋車に塩川君が同乗、3台で前鬼を後にする。川島車はそのまま帰新、豊嶋車は塩川君をスポーツ公園の駐車場まで送って帰新。

私は「きなりの湯」に寄って食事してから帰宅した。

「きなりの湯」の浴室に入ろうとしたら戸を開けて出てきた人とぶつたり、橋本さんだった。腰を痛めてしばらく養生していたが、少し良くなったので白屋岳に登ってきたそうだ。今日の顛末を裸のまま立ち話して別れた。

帰宅して翌22日、沖崎さんから電話があり「下北山村役場が二ツ岩上方の崩落状況を知りたいようなので、状況を説明して欲しい」とのこと。その後すぐに役場から電話があり「現場を見に行くのでどのあたりか、どんな状態か、捲き道は造れそうか」などを説明した。

間髪を入れず役場に連絡して頂いた五鬼助さんと、直ちに対応に動いて下さった下北山村役場に感謝申し上げます。何ともしがたいので山彦さんをお願いしたい、とならないよう祈っています。

行動タイム

持経宿06:00→06:28阿須迦利岳→07:12証誠無漏岳→07:51涅槃岳→08:21乾光門→09:04滝川辻→09:45般若岳→10:40地藏岳→11:02天狗の稽古場→11:13嫁越峠・昼食→12:27奥守岳→13:01天狗山→14:09太古ノ辻→15:15ニツ岩→16:15前鬼・小仲坊→16:55スポーツ公園駐車場。
(記：梶野)

平治宿班(消火器暴発による窓ガラス破損等の応急処置)

夜半に「みちくさハイキングクラブ」から知らされた平治宿の窓ガラス破損が気になる。池郷林道は、平日は車両通行止めになる、早くて4月27日(土)に来る事になり、窓枠サッシを降ろしても連休中は業者が休みで修理が難しくなる

明日、平治宿の窓ガラス破損箇所の応急処置をして、池原迄歩いて窓枠サッシ降ろして修理に出せば、4月28日から連休中の来宿者の対応に持経宿に入る豊嶋・樋口・前田氏に修理した窓ガラスサッシを渡せば、連休2日目に解消する事から、川島一人が平治宿に行く事を決め、起床後に点検巡視を5人をお願いする。平治宿には、応急処置の資材が無いと思われるブルーシート(小)とシート押えに梁上の胴縁材を降ろして、約2mに切り3本調達する。

点検巡視班を見送り、ブルーシート(小2枚)、シート押え材3本持って平治宿へ。

千年檜を過ぎた狭い鞍部からトガ大木の根を踏んで登る箇所奥駈道には、村吉さん単独で棧木丸太・砂利を運び、先週1泊2日で略完工した様だ。何時も単独で作業して下さり本当に有難く頭が垂れます。



点検巡視班出発前



奥駈道の改修箇所(歩き易くなる)



平治宿に着き窓ガラス破損は、今の時節の風から考えると西側(奥駈道側)だと思ったが、東側(谷側)の奥の窓ガラスが破損していた。外の窓下、破損ガラスを除けて宿内を覗くが、破損原因物が見つからない。

室内は、白くやや桃色帯びた粉末が床面・腰板の全面に飛散している。破損消火器は無いが、飛散粉末と飛散範囲から消火器が暴発して、窓ガラスを破損して粉末消火剤が飛散したと判断した。



破損ガラス窓と宿内の粉末飛散状況

破損箇所は風雨吹き込みを防ぐ為に、破損箇所ブルーシートを張り、シートを押さえ木で押える。外サッシを外した隙間にサッシ巾の材を見つけて差し込み、押え木側からビスでサッシ巾の木を止めて、風雨で飛ばないようにする。

窓を開け箒で床面・腰板を掃くが粉末消化石舞いあがる。ある程度掃いてから濡れ雑巾掛をする。又、入口の棚上やテーブルの足、窓ガラスにも粉末が付着しており雑巾で拭き取る。

2度の雑巾掛けに約2時間を要して、何とか宿泊出来る状態にした。拭き掃除後の写真を見ると、入口側の腰板には、未だ粉末が付着している。濡れ雑巾で拭いた時に、隙間に粉末が入り込み乾燥後に、再び粉末として飛散すると思われる、再度拭き掃除等を必要がある。



破損窓にシート張る

雑巾掛け後の宿内

水場水槽の底浚え前

水場水槽の底浚え後に平治宿に戻り、窓枠サッシを担いで持経宿に10時頃に戻る。尚、水場への木製段差4〜5段補修と水槽横の細い溝をコーキング剤で応急的に埋めて貯水する処置が必要である。

窓枠サッシを担いで池郷林道を3時間歩いて、池郷林道口に13時前到着。窓枠サッシは、軽いが肩で担いで手で窓枠を掴んで歩くので、時々足等に当り歩きづらい時もある。12時頃に林道

脇で昼食、約10分で済ませ歩く。此処の林道は歩いたことは無く、林道約3時間の歩行は疲れる。未だ下り一方なので幸いである。池郷林道口にザック・窓枠をデポし、池原公園駐車場に駐車する。コーヒーの接待をして頂く。

車で前鬼・小仲坊に14時前に到着し、五鬼助さんに挨拶と平治宿での窓ガラス破損顛末と点検巡視に5人歩いて来る旨を連絡する。コーヒーの接待をして頂く。

小仲坊に「みちくさハイキングクラブ」6名が元気に14時35分に到着。15時半前に豊嶋、勝山君が到着し、五鬼助さんから差し入れて頂いたジュース飲んでから勝山君は単車で帰宅。

児嶋・梶野・塩川君は、16時10分頃に到着、本当にお疲れ様でした。



池郷林道口にデポ

元気に「みちくさ」到着

先行組到着

行動タイム

持経宿 6:00→6:55 平治宿→8:55 水場→平治宿 9:10→10:05 持経宿 10:10→11:10 林道ゲート→12:55 池郷林道口→13:05 池原公園 駐車場→13:10 池郷林道口 13:15→13:50 前鬼・小仲坊。

(記：川島)